

## 茨城県の経済動向 平成18年4～6月期

この茨城経済四期報は、茨城県の経済活動の主要項目分野に着目し、これまで県等で公表された当該分野の各主要経済指標の数値変動をもとに、本県における最近の経済状況をマクロ的視点から、限られた統計データ分析範囲の中で、概観的にまとめたものです。

### 概況

本県の最近の経済動向をみると、生産活動は緩やかに増加しており、消費は一部に弱い動きが見られるものの、持ち直しの動きを維持している。民間設備投資は、増加しているが、公共投資は減少しており、住宅投資は、特に県南 TX 沿線周辺を中心に増加で推移している。雇用・労働は総じて回復基調が続いている。一方、景気ウォッチャー調査による景況感は、原油価格の高騰、原材料価格の上昇により企業動向関連でやや下がったものの、全体としては回復基調を維持している。また、景気動向指数は、景気が上昇・下降の境目である50%を5か月連続で上回っており、県民経済計算四半期速報による実質経済成長率は、5四半期連続でプラス成長となっている。

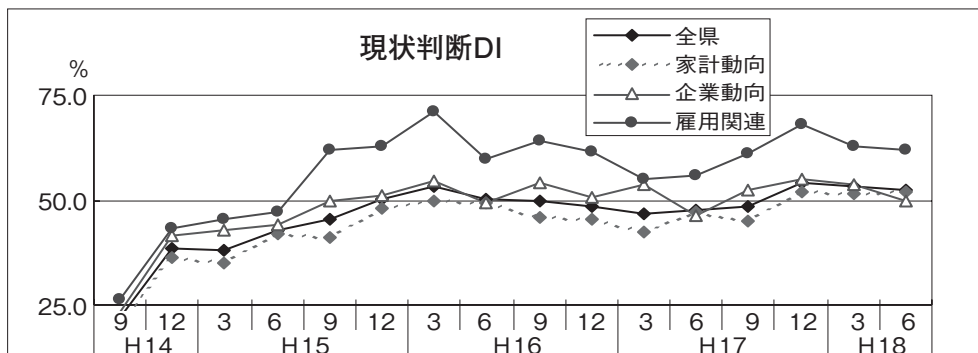
このようなことから、本県経済は、全体として、緩やかな回復基調を続けている。

### 景気等

- 景気ウォッチャー調査（6月実施）の現状判断DIは、前回調査（3月）に比べ0.9ポイント減の52.2となった。分野別に見ると、家計動向関連・雇用関連は、ほぼ前回水準となっているが、企業動向関連は、原油価格の高騰、原材料価格の上昇による収益減により4期ぶりに横這いを示す50を下回った。全体の景況感は、3期連続で横這いを示す50を上回っており、回復基調を維持している。
- 景気動向指数（6月）の一致指数DIは85.7と5か月連続で50%を上回った。また、先行指数は3か月連続で50%となった。  
〈※国の景気動向指数の一致指数は3か月連続50%を上回った。〉
- 県民経済計算四半期速報（平成18年1～3月期）の実質経済成長率は、対前期比プラス1.3%となり、5四半期連続（平成17年1～3月期以来）でプラス成長となっている。また、平成17年度速報でも前年度比3.5%増加と、平成14年度以降4年連続でプラス成長となっている。  
〈※国の実質経済成長率（平成18年1～3月期）は、+0.8%と5四半期連続でプラス成長となった。〉

### 景気の現状判断DI

分野	調査月	H16.9	H16.12	H17.3	H17.6	H17.9	H17.12	H18.3	H18.6
合計		49.9	48.3	46.9	47.7	48.5	54.1	53.1	52.2
家計動向関連		46.0	45.3	42.5	47.1	44.8	51.9	51.6	52.0
企業動向関連		53.9	50.6	53.6	46.5	52.4	54.8	53.5	49.7
雇用関連		64.0	61.5	55.0	56.0	61.0	68.0	63.0	62.0



**生産活動** …緩やかに増加

- ・ 鉱工業生産指数（6月）（平成12年=100）は109.3、前年同月比（原指数）6.1%増と2か月ぶりに前年水準を上回った。原指数及び季節調整済指数を単月で見ると増減があるものの、四半期ベースで見ると、原指数では2期連続前年水準を上回っており、季節調整済指数では3期連続で前期比が増加となっており、鉱工業生産指数全体としては、緩やかに増加している。

〈※全国の鉱工業生産指数（6月）は105.9、前年同月比5.0%増と11か月連続の増加となった。〉

- ・ 大口電力使用量の（6月）は、前年同月比3.9%増と2か月連続で前年水準を上回った。鉄鋼業は5か月ぶりに前年水準を上回り、機械器具製造業は11か月、非鉄金属製造業は9か月、それぞれ連続で前年水準を上回っているが、食料品製造業は19か月連続で前年水準を下回っている。

**消費** …一部に弱い動きが見られるものの、持ち直しの動きを維持

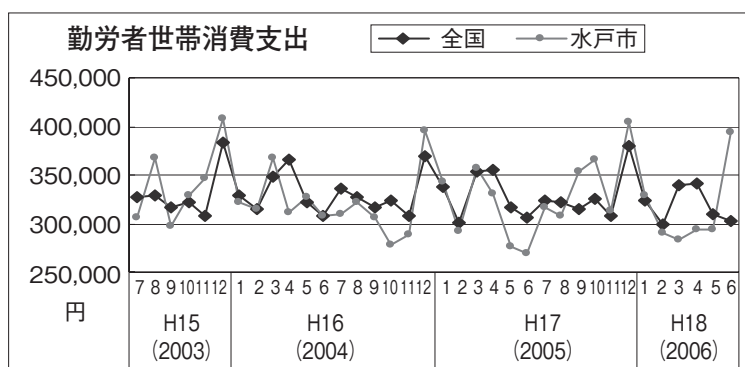
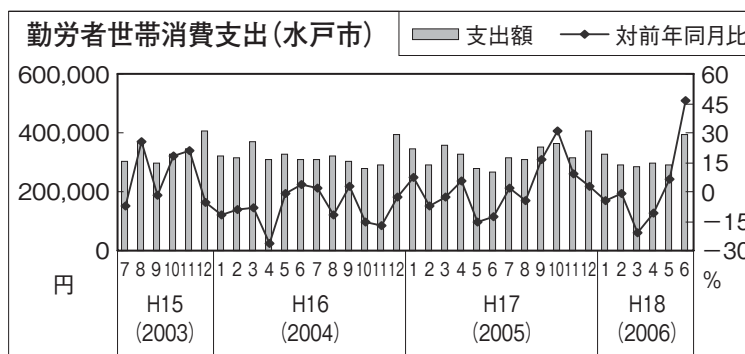
- ・ 自動車新規登録台数（6月）は12,007台で、前年同月比1.28%減と4か月連続で前年水準を下回った。貨物車・特殊車を除いた、乗用車で見ると、3か月連続で前年水準を下回っている。普通乗用車（2000cc超）は、19か月連続で、小型乗用車（2000cc以下）は3か月連続で前年水準を下回っているが、軽乗用車は6か月連続で前年水準を上回っている。全体として見ると弱い動きとなっている。
  - ・ 大型小売店販売額（6月）は、前年同月比1.08%増と2か月ぶりに前年水準を上回った。既存店ベースで見ると、大型小売店販売額（6月）は5か月連続で前年水準を上回っている。
- 内訳を見ると、百貨店販売額が8か月連続で前年水準を上回り、スーパー販売額は6か月連続で前年水準を下回っているが、全体の販売額は持ち直しの動きを維持している。

（※全国の大型小売店販売額（6月）は、前年同月比0.5%減と3か月連続して前年水準を下回った。）

○ 勤労者世帯消費支出(水戸市)

年	月	消費支出 (原数値:円)	対前年 同月比
H16 (2004)	10	278,794	-15.17
	11	288,009	-16.89
	12	395,555	-3.02
H17 (2005)	1	343,579	7.01
	2	291,914	-7.05
	3	357,387	-2.95
	4	330,118	5.89
	5	276,945	-15.41
	6	268,764	-12.88
	7	316,864	2.13
	8	308,767	-4.34
	9	354,127	15.98
	10	366,108	31.32
	11	313,157	8.73
	12	404,897	2.36
H18 (2006)	1	328,731	-4.32
	2	289,487	-0.83
	3	283,367	-20.71
	4	294,679	-10.74
	5	293,446	5.96
	6	393,902	46.56

二人以上世帯（農林漁家世帯を除く）  
資料出所：家計調査（総務省）



**民間設備投資** …増加で推移

法人企業景気予測調査（6月：水戸財務事務所）では、18年度上期の設備投資計画額は、全産業で前年同期比26.7%の増加見込みとなっている。18年度下期でも、全産業で前年同期比11.8%の増加見通しとなっている。

## ■調査から

### 建設投資 …住宅投資は増加で推移、公共投資は連続減少

- ・ 新設住宅着工戸数（6月）は、2,399戸、前年同月比5.8%増と3か月連続で増加となり、特にTX沿線周辺の増加が目立っている。四半期毎に見ると8四半期連続で前年水準を上回っている。地域別には、県央地域が3期、県南地域が8期それぞれ連続で前年水準を上回っている。  
 〈※全国の新設住宅着工戸数（6月）は、対前年比4.7%増と5か月連続で増加している。〉
- ・ 公共工事請負金額から公共投資の動向をみると、6月は2か月ぶりに前年水準を下回った。四半期ベースで見ると、件数では7期連続、金額でも4期連続で前年水準を下回っている。

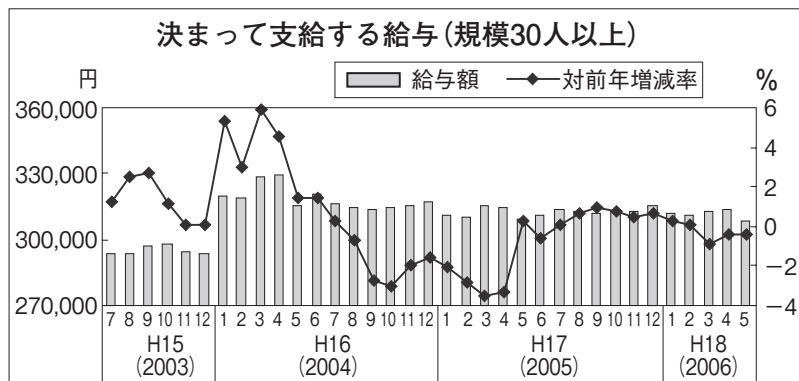
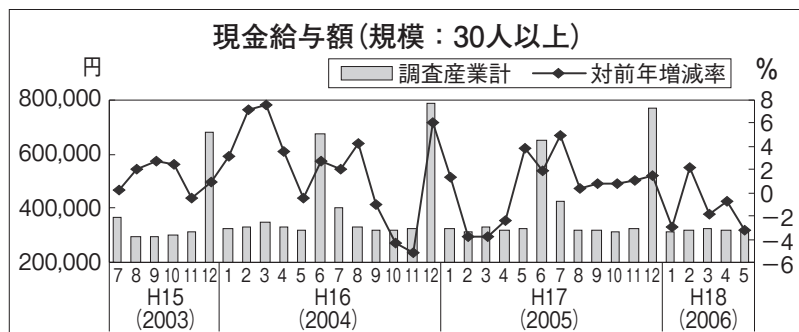
### 雇用・労働 …総じて改善基調を維持

- ・ 新規求人倍率（6月）は1.27と前年同月と比較して0.14%増加となった。四半期で見ても、平成17年4～6月期（前年同期）は1.01、平成18年4～6月期は1.08と、前年水準を上回っている。
- ・ 雇用保険受給者実人員（6月）は、11,116人、前年同月比10.9%減と44か月連続で前年水準を下回っている。
- ・ 産業別現金給与額（規模30人以上：5月）は、313,554円と、3か月連続で前年水準を下回ったが、決まって支給する給与（規模30人以上）をみると、平成17年5月以降、概ね横這いの水準で推移している。

○ 産業別現金給与額（規模：30人以上）

年	月	調査業計	対前年同月増
H16 (2004)	10	316,149	-4.3
	11	322,393	-5.2
	12	790,445	6.1
H17 (2005)	1	324,573	1.3
	2	311,041	-3.8
	3	330,385	-3.7
	4	321,600	-2.4
	5	324,033	3.8
	6	648,686	1.9
	7	423,517	5.0
	8	315,763	0.4
	9	315,986	0.8
	10	313,631	0.7
	11	323,523	1.1
	12	771,295	1.5
H18 (2006)	1	314,821	-3.0
	2	317,792	2.2
	3	324,453	-1.8
	4	319,103	-0.8
	5	313,554	-3.2

資料出所：県統計課「毎月勤労統計調査月報」



※ 参考：最近の国内経済の動向（内閣府「月例経済報告」平成18年8月8日）

景気は、回復している。

- ・ 企業収益は改善し、設備投資は増加している。
- ・ 個人消費は、緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・ 輸出、生産は緩やかに増加している。

先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。